

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 06-032364

(43) Date of publication of application : 08.02.1994

(51)Int.CI. B65D 55/02
B65D 51/24

(21)Application number : 05-124877 (71)Applicant : OWENS ILLINOIS CLOSURE INC

(22) Date of filing : 28.04.1993 (72) Inventor : KUSZ MAXIMILLIAN

(30)Priority

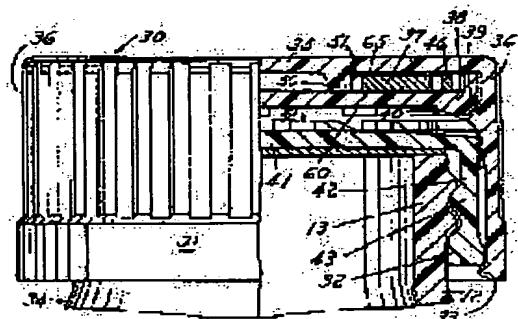
Priority number : 92 878647 Priority date : 05.05.1992 Priority country : US

(54) CHILD RESISTANT REMINDER CLOSURE

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain a child resistant reminder closure, which is reliable and has the visible indication

changeable relative to apply and to remove the closure. CONSTITUTION: This closure includes an outer closure member (31) having a base wall (35) and a peripheral skirt (36), a bead (33) retaining the inner closure member for limited axial outward movement relative to the base wall and the outer closure member, and an inner closure member (32). A day disk (37) or an indexing disk (38) assembly is provided on the outer closure member and is rotatable relative thereto. The day disk is neighboring to the inner surface of the base wall of the outer closure member and is set on the under layer of the indexing disk. A first set of flexible radial ratcheting fingers extend radically from the day disk and engage radical lugs on the undersurface of the base wall of the outer closure member. A second set of flexible radial ratcheting fingers extend radically from the day disk and engage circumferentially spaced lugs on the upper surface of the indexing disk.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.04.1993

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2030290

[Date of registration] 19.03.1996
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right] 10.05.2001

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-32364

(43)公開日 平成6年(1994)2月8日

(51) Int.Cl.⁵
B 6 5 D 55/02
51/24

識別記号 廈内整理番号
7445-3E
E 7445-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 9(全 8 頁)

(21)出願番号 特願平5-124877
(22)出願日 平成5年(1993)4月28日
(31)優先権主張番号 07/878647
(32)優先日 1992年5月5日
(33)優先権主張国 米国(US)

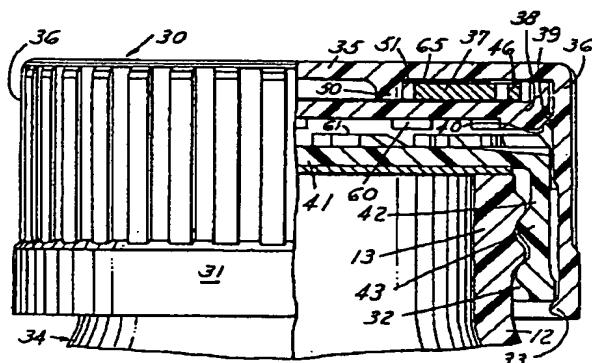
(71)出願人 591050383
オーエンスーイリノイ・クロージャ・イン
コーポレーテッド
OWENS-ILLINOIS CLOS
URE INCORPORATED
アメリカ合衆国オハイオ州43666トレド、
ワン・シーゲイト(番地なし)
(72)発明者 マクシミリアン・クツズ
アメリカ合衆国オハイオ州43566 ウオー
ターヴィル、エス・リヴアー・ロード
345
(74)代理人 弁理士 川原田 一穂

(54)【発明の名称】 幼児抵抗注意蓋

(57) 【要約】

【目的】 信頼性があり、蓋の装着又は除去に関して目視表示が変化できる幼児抵抗注意蓋

【構成】 底壁(35)及び周辺スカート(36)を有する外蓋部材(31)、底壁及び上記外蓋部材に対する制限された軸方向外方移動に対し内蓋部材を保持する外蓋部材に対するピード(33)、内蓋部材(32)を含む。曜日盤(37)及び指標盤(38)組立が上記外蓋部材上に設けられ、回転可能。曜日盤は外蓋部材の底壁の内面に隣接、指標盤の下層に装着される。可撓性の半径方向のつめ車用指状突起の第1の組は、曜日盤から半径方向に伸び出し、かつ外蓋部材の底壁の下面の半径方向ラグと係合。可撓性の半径方向のつめ車用指状突起の第2の組は、曜日盤から半径方向に伸び出し、かつ上記指標盤の上面の周囲に一定間隔離れて配置されたラグと係合。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 幼児抵抗注意蓋であって、底壁および周辺スカートを有する外蓋部材（31）、底壁および周辺スカートを有する内蓋部材（32）、上記外蓋部材と上記内蓋部材との間で、上記外蓋部材に対する軸方向外方移動に対して上記内蓋部材を保持する相互係合装置（33）を含み、上記外蓋部材（31）および上記内蓋部材（32）は、相互に軸方向移動が制限され、曜日盤（37）および指標盤（38）の組立が、上記外蓋部材に回転できるように装着され、上記曜日盤（37）が、上記外蓋部材（31）の底壁の内面に隣接して設けられ、上記指標盤（38）が、上記曜日盤に隣接して設けられ、該曜日盤（37）が1個の開口（45）および上記曜日盤から該開口（45）内に半径方向内側に延び出る第1の組の可撓性半径方向つめ車用装置（47）、および該第1の組と同方向に、上記曜日盤（37）から半径方向に延び出る第2の組の可撓性半径方向つめ車用装置（46）を有し、上記外蓋部材が、上記第1の組の可撓性つめ車用装置（47）と係合するようになっている1組のラグ（50）を有しており、上記指標盤（38）が、上記曜日盤の第2の組のつめ車用装置で係合できる装置（48, 49）をその上有しておる、上記外蓋部材と上記指標盤との間の、第1の組の回転係合できる装置、を含み、上記指標盤と上記内蓋部材との間の、1組の軸方向係合できる装置（60, 70）を含み、上記曜日盤が、その上の周辺に一定間隔配置された表示を有し、上記外蓋部材の上部底壁が、上記表示に選択的に整列されるようになっている開口を有し、上記内蓋部材と容器の相対回転により、容器上の装置と係合するようになっている、内蓋部材（32）上の相互係合装置（49）を含み、従って、外蓋部材が上記内蓋部材と係合のため軸方向に移動される時には、上記蓋が容器から除去でき、かつ上記曜日盤が上記外蓋部材に対し回転でき、上記曜日盤の装着または除去期間中、上記開口を通して異なる表示を視界中にもたらすようになっている、上記幼児抵抗注意蓋。

【請求項2】 上記曜日盤上の上記第1の組の可撓性半径方向つめ車用装置は、周辺に一方向に延び出し、かつ自由端部を有する、可撓性指状突起を含み、上記第2の組の可撓性半径方向つめ車用装置は、上記第1の組の指状突起と同一方向に周辺に延び出す、複数の周辺延在可撓性指状突起を含み、上記第1の組が上記曜日盤内開口

上配置される請求項1に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項3】 上記外蓋部材上の上記ラグの上記1つの組は、上記外蓋部材の底壁と周辺スカートとの接合点に配置され、ラグの2番目の組は、上記外蓋部材の底壁から下方に延び出す円筒面の周囲に配置される請求項2に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項4】 上記曜日盤上の第1の組の可撓性指状突起と係合できる、上記指標盤上の装置は、上記外蓋の底壁方向に延び出る、上記指標盤上のラグを含み、かつ第1の組のつめ車用装置を含む、上記第2の組の可撓性指状突起の自由端部をその内に接触させる凹部、および上記外蓋部材がどちらかの方向に回転する時に、上記指標リング上のラグと係合するようになっている、上記外蓋部材上の他の一組のラグを有する請求項3に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項5】 上記曜日盤と上記内蓋部材との間の軸方向相互係合装置の組は、上記指標盤の下側のラグ、および上記内蓋部材の上記底壁の上面の周囲に一定間隔配置されたラグを含み、上記指標盤の下側のラグは、外蓋部材が内蓋部材方向に軸方向移動する時には、上記内蓋部材上の上記ラグの凹部間に延び出るようになっており、そして上記外蓋部材を回転して蓋を容器に装着または容器から蓋を除去する時に、内蓋部材上のラグと係合するようになっている請求項4に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項6】 上記蓋の除去時に、上記外蓋部材に關し上記曜日盤が回転するように、上記曜日盤上の上記可撓性つめ車用装置が周辺に延び出している請求項1-5のいずれかに記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項7】 上記蓋の装着時に、上記外蓋部材に關し上記曜日盤が回転するように、上記曜日盤上の上記可撓性つめ車用装置が周辺に延び出している請求項1-5のいずれかに記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項8】 軸方向における上記曜日盤の厚さが、外蓋部材方向へ延び出る指標盤上のラグの軸方向高さよりも小さく、かつ上記外蓋部材上のラグの軸方向高さよりも小さい請求項4-7のいずれかに記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項9】 上記外蓋部材に關し軸方向外方移動に抗し、上記曜日盤と指標盤の組立を保持する、上記外蓋部材上の装置を含む請求項1に記載の幼児抵抗注意蓋。

【発明の詳細な説明】

【0001】この発明は、幼児抵抗注意蓋に関するものである。

【発明の背景および摘要】

处方薬の規則正しい使用法または持続は、その使用者の健康を確保するのに重要なものとなってきており、かつ米国食品医薬品局のような、保健当局および政府機関により強調されかつ支持されている。養生法に従うため、薬を服用する人が最後にいつ服用したかを思い出すことが助けになっている。これに関する助力の一方法は、蓋

包装が最後にいつ開けられたか、または包装は次回いつ開けるべきかの目視表示器を有する蓋を備えることである。現行の上記要求に応じる蓋は、高価な電池作動式表示器を使用している。他の蓋は、複雑かつコスト高の機械的構造体を使用している。上記機械的形式の代表的な蓋は、米国特許第3, 151, 599号、第4, 011, 289号、第4, 365, 722号および第5, 009, 338号に示されている。これらの蓋は、上記注意を与える構成要素間でそれらが軸方向移動を必要とする不利な点がある。幼児抵抗蓋の外蓋部材と内蓋部材との間の軸方向移動は、上記注意蓋の構成要素間のそのような普通の軸方向移動を許すことはできない。さらに、注意を与える構成要素間の相対的軸方向移動および回転は、表示の摩耗および抹消を生じる可能性がある。

【0002】本発明の主目的は、信頼性があり：所定情報を繰り返し提供する機能をはたし：注意を与える構成要素間に軸方向の力を組み入れることなく：ここにこれらの構成要素は、蓋が装着されるか、除去されるかに関して目視表示に変化ができるように可逆性があり：昔からある周知の幼児抵抗構造体を利用し、そして容易に量産製造ができる、機械的形式の幼児抵抗注意蓋を提供することにある。

【0003】本発明によれば、幼児抵抗注意蓋は、底壁および周辺スカートを有する外蓋部材、底壁および上記外蓋部材に対する制限された軸方向外方移動に対し、内蓋部材を保持する外蓋部材上のビードを有する内蓋部材を含む。曜日盤および指標盤の組立が上記外蓋部材上に設けられ、かつこれに対して回転できる。上記曜日盤は上記外蓋部材の底壁の内面に隣接して設けられ、かつ指標盤の下層に装着される。可撓性の半径方向のつめ車用指状突起の第1の組は、曜日盤から半径方向に延び出し、かつ上記外蓋部材の底壁の下面の半径方向ラグと係合する。可撓性の半径方向のつめ車用指状突起の第2の組は、曜日盤から半径方向に延び出し、かつ上記指標盤の上面の周囲に一定間隔離れて配置されたラグと係合する。軸方向に相互係合できるラグと凹部が上記外蓋部材に設けられ、そして上記指標盤および相互係合ラグと凹部が指標盤の下面と内蓋部材との間に設けられ、これらは容器から蓋を除去したりまたは装着したりするようになっており、これによって幼児抵抗特徴を提供している。1個の窓が上記外蓋部材に設けられ、かつ上記曜日盤の表示に関連して、上記曜日盤に対する外蓋部材の周囲位置を表示する。

【0004】説明

図1および2について説明すると、本発明による幼児抵抗注意蓋30は、外蓋部材31および環状ビード33により制限された軸方向外方移動に対して保持される内蓋部材32を含んでいる。上記蓋30は、ここに記載のように蓋30のねじと係合するようになっているねじのある容器34と共に使用されるようになっている。図2—

3および図15に示されるように、外蓋部材31は、底壁35および周辺スカート36を含む。曜日盤37と指標盤38の組立は、軸方向移動に対して保持されるが、指標盤38の周辺上の傾斜面40に係合する環状リブ39により、外蓋部材31に対する回転移動を許す。ここに記載されたように、従来形幼児抵抗構造体の内蓋部材32は、底壁41、および上記容器34の首のねじ44に係合するようになっているねじ43を有する周辺スカート42を含む（図2）。

【0005】内蓋部材32に向かって、外蓋部材31の軸方向移動と組み合い、上記外蓋部材31の右回転時、上記蓋30は容器上にねじ込まれる。この回転期間中、外蓋部材31は曜日盤37をつめ車で通過し、記載のように連続表示65を開口66を通して見られるようになる。上記曜日盤37は可逆機構で、表示65は図14におけるように対向側に設けることもできる。そのような配列にあっては、曜日盤37に対する外蓋部材31の回転は、容器34に蓋30の装着時に起こる。

【0006】図14に示されるように、上記曜日盤37は開口45を有する。複数の等間隔配置された可撓性つめ車用指状突起46は、図14に示されるように、半径方向右回りに延び出しその外周に設けられ、かつその中の開口45の内周の、複数で等間隔配置された、つめ車用可撓性指状突起47は、同一方向に半径方向周辺に延び出る。指状突起46は、指標盤38（図20）から軸方向に延び出るラグ49の凹部48内に移動するようになっている。上記可撓性指状突起47は、外蓋部材31の底壁35に一体成形され、かつその下側から延び出る環状壁51の軸方向に延び出る半径方向リブ50に係合するようになっている（図19）。

【0007】図9に示されるように、外蓋部材31の下側には軸方向に延び出すラグ55がある。このラグ55は、予め決められた角度の次に、上記蓋30がいずれか一方に回転される時に、上記指標盤38のラグ49と係合するようになっている。相互係合装置は、内蓋部材32のラグ61間の間隔62内に延び出る、指標盤38の下側のラグ60を含む（図17）。内蓋部材32に対する外蓋部材31の軸方向移動および外蓋部材31の左回転時には、上記容器から蓋30をねじもどすための、ラグ60と61との間にかみ合いが行なわれる。

【0008】曜日盤37は、週の中の曜日のような、または図14に示されるような週の中の2組の曜日に対する表示を含む。上記外蓋部材31には、表示65のおのが見られる開口66が設けられる。この表示65は、浮彫りか、押出し模様がつけられるか、または印刷される。外蓋部材31の、内蓋部材32を装着する方向へ右回転時には、接触部50が垂下リング51上で偏り、そして曜日盤37の内面上の可撓性部品47を通り過ぎて回転する。上記蓋構成要素は通常、ポリプロピレンまたはポリエチレンのようなプラスチックで作られ、

そして上記曜日盤37は、外蓋部材31とは異なる色彩にしている。

【0009】上記蓋30は、上記容器のねじ上に右回転させることにより上記容器34に装着される。上方からみて右回りに回転を続けてねじを締める。外蓋部材31の左方向回転は、通常外蓋部材を内蓋部材32に対して単に回転させるだけである。上記容器から上記蓋30を除去するためには、外蓋部材31を内蓋部材32に向か軸方向に移動し、ラグ60を内蓋部材32のラグ61間の間隔62内にもたらし、これにより下向きの力および外蓋部材31の左回転を継続すると、内蓋部材32が上記容器からねじもどされる。この回転期間中、そしてラグ55がラグ49と係合する前は、指状突起47はリブ50と係合し、外蓋部材と共に上記曜日盤37を回転させる。

【0010】図2および3について説明すると、外蓋部材31のスカート36のセグメントビード39は、指標盤38および曜日盤37が外蓋部材31の上記領域内に保持されるように、上部パネル35から特定距離に配置される。上記セグメントビード39と外蓋部材31の上部パネル35との間に十分な軸方向距離があるので、外蓋部材31と指標盤38または曜日盤37との間には、軸方向寸法の干渉がほとんどまたは全く存在しない。外蓋部材31、指標盤38または曜日盤37は相互に回転は自由であるが、セグメント保持ビード39のために、これらの部品間の軸方向移動は極めて制限されている。曜日盤37の軸方向高さすなわち厚さは、指標盤38のラグ49および外蓋部材のラグ55の軸方向高さよりも小さい。この配列は、外蓋部材31および指標盤38を、上記外蓋部材31のどんな軸方向移動に関しても調和して作動させる。結果として、上記外蓋にかかる軸方向力は、注意を与える構成要素の回転には干渉しない。さらに、軸方向力は、上記表示の摩耗および抹消も生じない。

【0011】蓋の除去

容器34から蓋30を除去するためには、外蓋部材31は、左回転しなければならず、これが外蓋部材31の上部パネル35のラグ55を、指標盤38の突起49の両面に接触させて、指標盤を左回転方向に回転させる。指標盤38のラグ60は、次に内蓋部材32の底壁41のラグ61に接触し、そして十分な力がラグ60をこの傾斜面にカミングアップしないように加えられない限り、連続突起61の傾斜面70にカムアップする。十分な下向きの力が加えられる時には、ラグ60は内蓋部材32上に回転トルクを与え、そして容器34から内蓋部材をねじもどす。上記幼児抵抗特徴の構成は、本明細書に参考までに組み入れた米国特許第4,997,096号のものに類似している。他の周知の幼児抵抗構成は、参考までに本明細書に組み入れた米国特許第4,353,474号、第4,371,088号、第4,480,75

9号、第4,609,114号、第4,947,210号、第5,020,681号および英国特許第1,529,999号に示されるように用いることもでき、そのおののは外蓋部材と内蓋部材との間の相対的軸方向移動およびトルクで機能する。

【0012】蓋の装着および締め付け

上記蓋30が容器34に装着される時には、外蓋部材31は右回転され、上部パネルのラグ55を指標盤38の底壁の突起49に接触させ、指標盤38を右回転させ底部パネル上のラグ60を、内蓋32の上部パネル41のラグ61の側面71に接触させ、内蓋を右方向に回転させる。外蓋部材31の連続回転は、内蓋32を容器34内に締め付けさせる。上記蓋30を容器34から除去中、外蓋31の回転は上部パネル35から垂下しているリング51のリブ50を曜日盤37の可撓性突起47と接触させ、曜日盤を除去方向（左回転）にまた回転させる。曜日盤37のこの回転は、上記可撓性突起46を、指標盤38の突起49の指標ポケット48から脱して回転させる。指標盤38に対する外蓋31と曜日盤37のこの回転は、外蓋部材31の底壁35のラグ55が指標盤38の突起49と接触するようになるまで継続する。指標盤38に関して外蓋部材31および曜日盤37の全角度回転は、指標盤38に関して1指標位置、曜日盤を前進させ、そして曜日盤37は外蓋31に関して静止したままである。従って、外蓋31の窓66を通して見られる曜日盤37の表示は、上記外蓋部材31のこの左回転期間中は変化しない。

【0013】上記蓋30が容器に装着され、かつ外蓋31が右回り方向に回転される時には、指標盤の突起49のポケット48内に上記可撓性突起46がロックされるので、曜日盤37は指標盤38に関して静止したままであり、一方蓋30のリング51のリブ50は、曜日盤37の内部の可撓性突起47を通過して回転する。この回転は、外蓋31の上部パネルのラグ55が、指標盤の突起49に接触するまで継続する。この完全回転は、外蓋31に関して1指標位置、曜日盤37が前進され、そして外蓋31の窓66の表示は1位置前進される。

【0014】上記容器34に蓋30を装着および容器34から蓋30を除去する期間中、指標盤38の突起49にラグが接触するにつれ、外蓋のラグ55の角運動は予め決められた角度を通して運動する。例えば、もしも14指標位置あれば、360°を14で除しすなわち25.7°である。従って、表示は25.7°間隔で曜日盤37に現われねばならず、そして外蓋は回転方向の変化が起こる度毎に最小限25.7°回転しなければならず、蓋30にとって1指標位置前進させるため、その度に蓋30は、容器34に装着されるにつれ右回り方向に回転される。従って、信頼性があり；所定情報を繰返し提供する機能を果たし；注意を与える構成要素間に軸方向の力を組み入れることなく；ここにこれらの構成要素

は、蓋が装着されるか、除去されるかに関して目視表示に変化ができるように可逆性であり：昔からある周知の幼児抵抗構造体を利用し、そして容易に量産製造ができる、幼児抵抗蓋を提供されたことが理解できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】注意蓋を有する幼児抵抗包装の斜視図。

【図2】上記蓋を示す極めて拡大したスケールの部分断面図。

【図3】上記蓋の部分断面分解図。

【図4】図3の線4-4による底面図。

【図5】図3の線5-5による上面図。

【図6】図5の線6-6による拡大スケールの部分断面図。

【図7】図3の線7による拡大スケールの部分断面図。

【図8】図3に示される外蓋部材の断面図。

【図9】図8に示される外蓋部材の底面図。

【図10】図8の線10-10による部分断面図。

【図11】図10の線11-11による拡大スケールの部分断面図。

【図12】図8に見られる外蓋の上面図。

【図13】図12の線13-13による拡大スケールの部分断面図。

【図14】指標リングの上面図。

【図15】図14の線15-15による拡大スケールの部分断面図。

【図16】図14の線16-16による拡大スケールの部分断面図。

【図17】本発明を具体化する蓋の上面斜視分解図。

【図18】上記蓋の底面分解斜視図。

【図19】指標盤をその内に有する外蓋部材の底面斜視

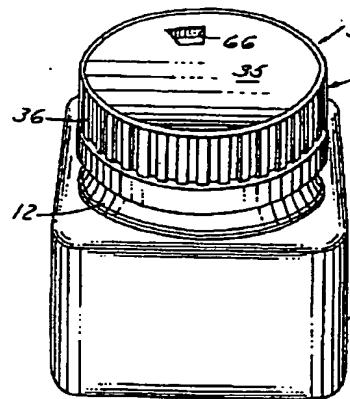
図。

【図20】指標盤と固定盤をその上に有する内蓋部材の上面斜視図である。

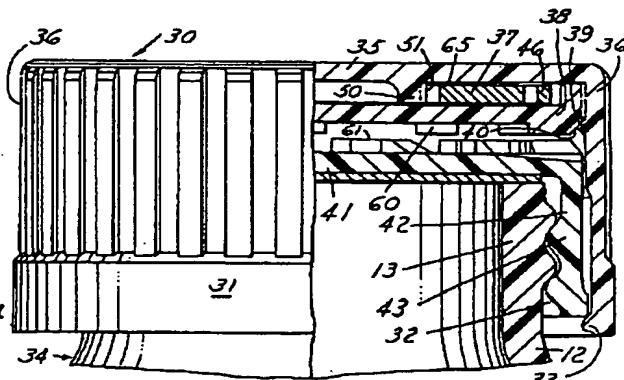
【符号の説明】

30	幼児抵抗注意蓋
31	外蓋部材
32	内蓋部材
33	環状ビード
34	容器
35, 41	底壁すなわち上部パネル
36, 42	周辺スカート
37	曜日盤
38	指標盤
39	環状リブすなわちセグメントビード
40	傾斜面
43	めねじ
44	ねじ
45	開口
46, 47	可撓性つめ車用指状突起（装置）
48	凹部すなわち指標ポケット
49	ラグすなわち接触突起
50	軸方向延長半径方向リブすなわち停止部
51	環状壁すなわち垂下リング
55	軸方向延長ラグ
60, 61	ラグすなわち連続突起
62	間隔
65	連続表示
66	開口すなわち窓
70	傾斜面

【図1】



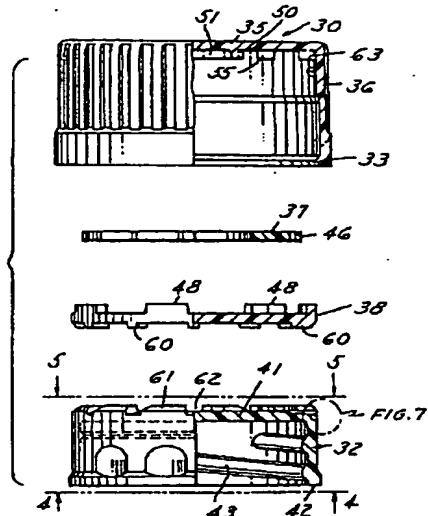
【図2】



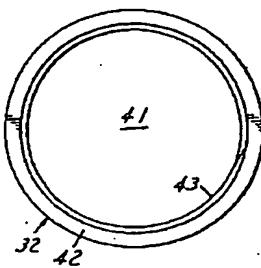
【図7】



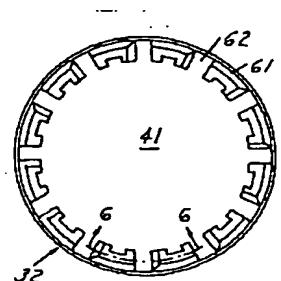
【図3】



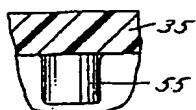
【図4】



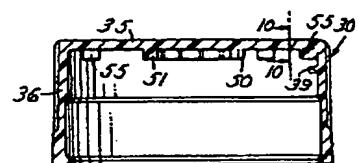
【図5】



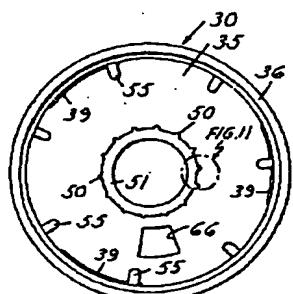
【図10】



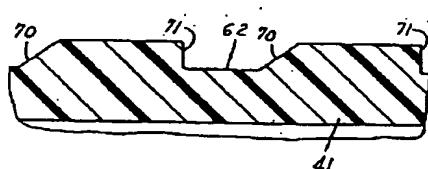
【図8】



【図9】

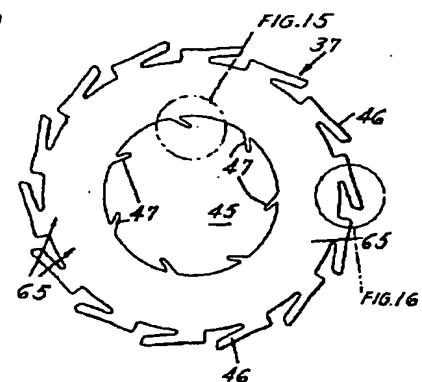
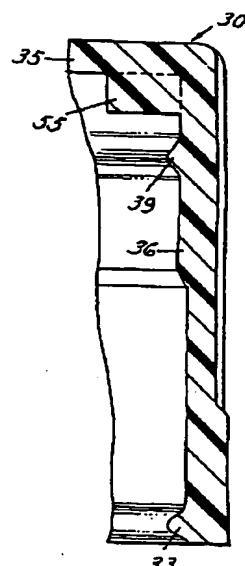


【図6】

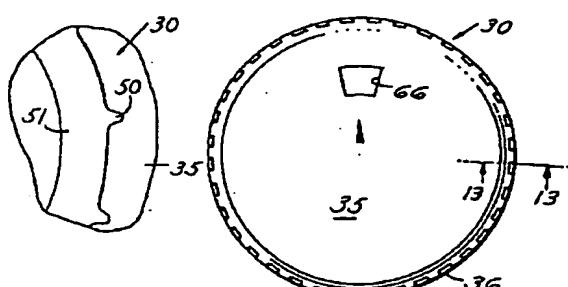


【図13】

【図14】

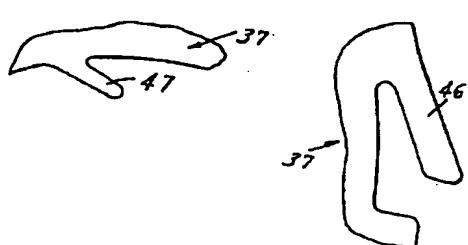


【図11】



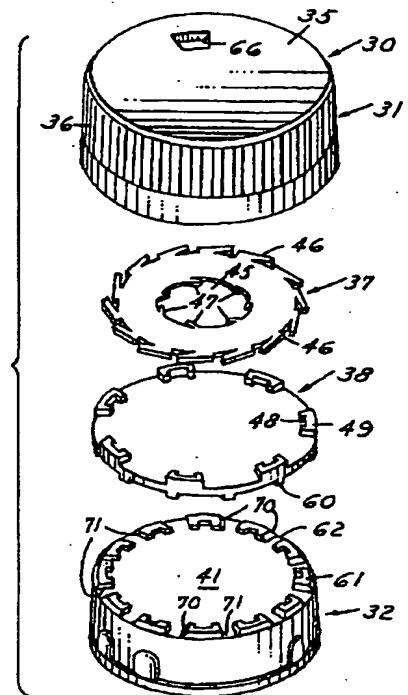
【図12】

【図15】

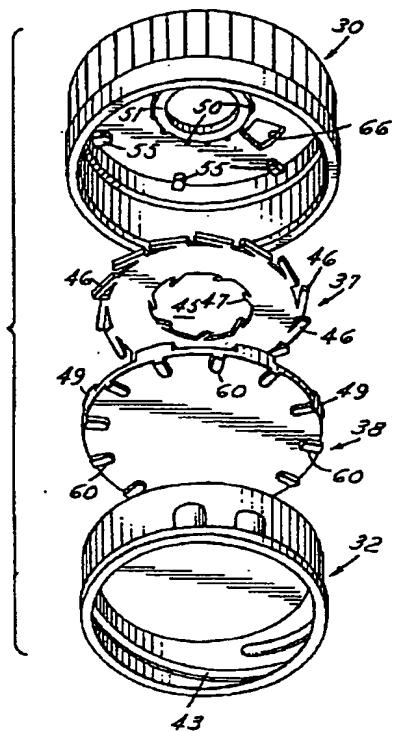


【図16】

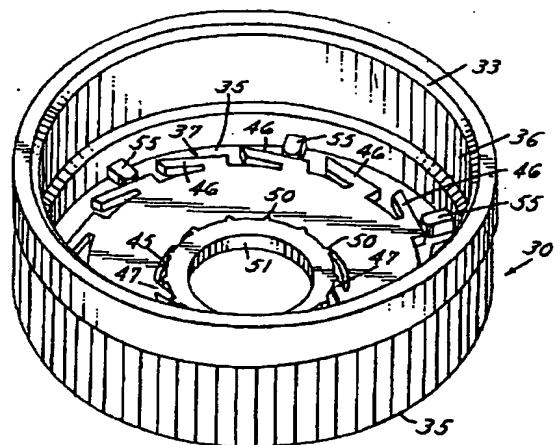
【図17】



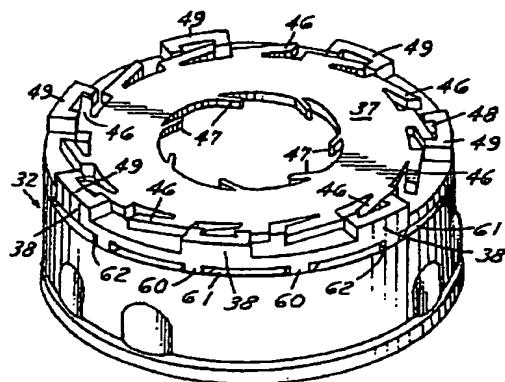
【四 18】



【図19】



【图20】



【手続補正書】

【提出日】平成5年7月20日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】麥更

【補正內容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 幼児抵抗注意蓋であって、底壁および周辺スカートを有する外蓋部材、
底壁および周辺スカートを有する内蓋部材、
上記外蓋部材と上記内蓋部材との間で、上記外蓋部材に対する軸方向外方移動に対して上記内蓋部材を保持する

相互係合装置を含み、

上記外蓋部材および上記内蓋部材は、相互に軸方向移動が制限され、

曜日盤および指標盤の組立が、上記外蓋部材に回転できるように装着され、

上記曜日盤が、上記外蓋部材の底壁の内面に隣接して設けられ、

上記指標盤が、上記曜日盤に隣接して設けられ、

該曜日盤が1個の開口および上記曜日盤から該開口内に半径方向内側に伸び出る第1の組の可撓性半径方向つめ車用装置、および該第1の組と同方向に、上記曜日盤から半径方向に伸び出る第2の組の可撓性半径方向つめ車用装置を有し、

上記外蓋部材が、上記第1の組の可撓性つめ車用装置と係合するようになっている1組のラグを有しており、

上記指標盤が、上記曜日盤の第2の組のつめ車用装置で係合できる装置をその上に有しており、

上記外蓋部材と上記指標盤との間の、第1の組の回転係合できる装置、を含み、

上記指標盤と上記内蓋部材との間の、1組の軸方向係合できる装置を含み、

上記曜日盤が、その上の周辺に一定間隔配置された表示を有し、

上記外蓋部材の上部底壁が、上記表示に選択的に整列されるようになっている開口を有し、

上記内蓋部材と容器の相対回転により、容器上の装置と係合するようになっている、内蓋部材上の相互係合装置を含み、

従って、外蓋部材が上記内蓋部材と係合のため軸方向に移動される時には、上記蓋が容器から除去でき、かつ上記曜日盤が上記外蓋部材に対し回転でき、上記曜日盤の装着または除去期間中、上記開口を通して異なる表示を視界中にもたらすようになっている、

上記幼児抵抗注意蓋。

【請求項2】 上記曜日盤上の上記第1の組の可撓性半径方向つめ車用装置は、周辺に一方向に伸び出し、かつ自由端部を有する、可撓性指状突起を含み、上記第2の組の可撓性半径方向つめ車用装置は、上記第1の組の指状突起と同一方向に周辺に伸び出す、複数の周辺延在可撓性指状突起を含み、上記第1の組が上記曜日盤内の上記開口上に配置される請求項1に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項3】 上記外蓋部材上の上記ラグの上記1つの組は、上記外蓋部材の底壁と周辺スカートとの接合点に配置され、ラグの2番目の組は、上記外蓋部材の底壁から下方に伸び出す円筒面の周囲に配置される請求項2に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項4】 上記曜日盤上の第2の組の可撓性指状突起と係合できる、上記指標盤上の装置は、上記外蓋の底

壁方向に伸び出る、上記指標盤上のラグを含み、かつ第1の組のつめ車用装置を含む、上記第2の組の可撓性指状突起の自由端部をその内に接触させる凹部、および上記外蓋部材がどちらかの方向に回転する時に、上記指標盤上のラグと係合するようになっている、上記外蓋部材上の他の一組のラグを有する請求項3に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項5】 上記曜日盤と上記内蓋部材との間の軸方向相互係合装置の組は、上記指標盤の下側のラグ、および上記内蓋部材の上記底壁の上面の周辺に一定間隔配置されたラグを含み、上記指標盤の下側のラグは、外蓋部材が内蓋部材方向に軸方向移動する時には、上記内蓋部材上の上記ラグの凹部間に伸び出るようになっており、そして上記外蓋部材を回転して蓋を容器に装着または容器から蓋を除去する時に、内蓋部材上のラグと係合するようになっている請求項4に記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項6】 上記蓋の除去時に、上記外蓋部材に関し上記曜日盤が回転するように、上記曜日盤上の上記可撓性つめ車用装置が周辺に伸び出している請求項1-5のいずれかに記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項7】 上記蓋の装着時に、上記外蓋部材に関し上記曜日盤が回転するように、上記曜日盤上の上記可撓性つめ車用装置が周辺に伸び出している請求項1-5のいずれかに記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項8】 軸方向における上記曜日盤の厚さが、外蓋部材方向へ伸び出る指標盤上のラグの軸方向高さよりも小さく、かつ上記外蓋部材の底壁とスカートとの接合点に配置された他の組のラグの軸方向高さよりも小さい請求項4-7のいずれかに記載の幼児抵抗注意蓋。

【請求項9】 上記外蓋部材に関し軸方向外方移動に抗し、上記曜日盤と指標盤の組立を保持する、上記外蓋部材上の装置を含む請求項1に記載の幼児抵抗注意蓋。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】図9に示されるように、外蓋部材31の下側には、底壁35とスカート36との接合点に配置された、軸方向に伸び出すラグ55がある。このラグ55は、予め決められた角度の次に、上記蓋30がいずれか一方に回転される時に、上記指標盤38のラグ49と係合するようになっている。相互係合装置は、内蓋部材32のラグ61間の間隔62内に伸び出る、指標盤38の下側のラグ60を含む(図17)。内蓋部材32に対する外蓋部材31の軸方向移動および外蓋部材31の左回転時には、上記容器から蓋30をねじもどすための、ラグ60と61との間にかみ合いが行なわれる。